

経営比較分析表

佐賀県 小城市

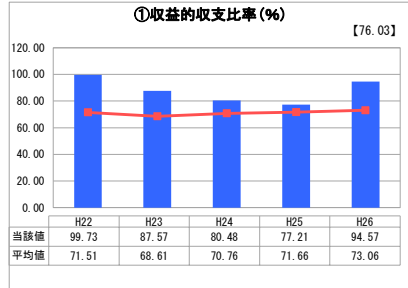
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.66	3,348

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
46,003	95.81	480.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
301	5.40	55.74

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



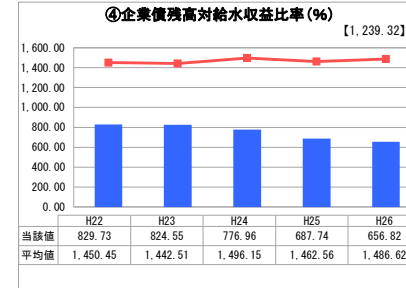
「単年度の収支」



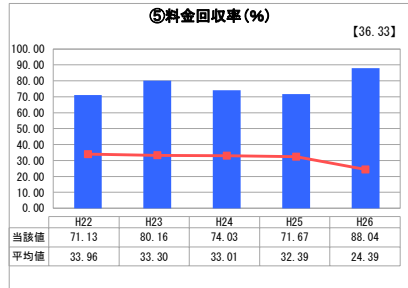
「累積欠損」



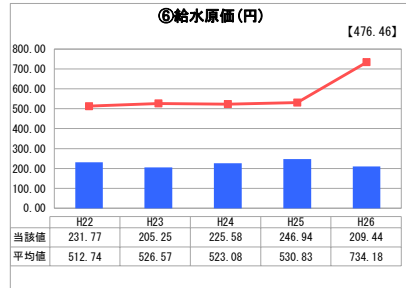
「支払能力」



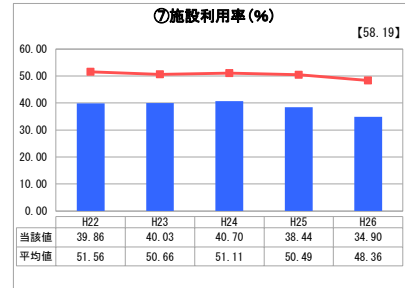
「債務残高」



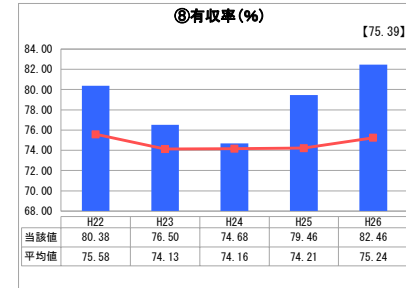
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

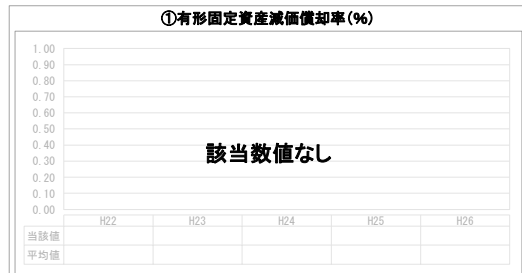


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

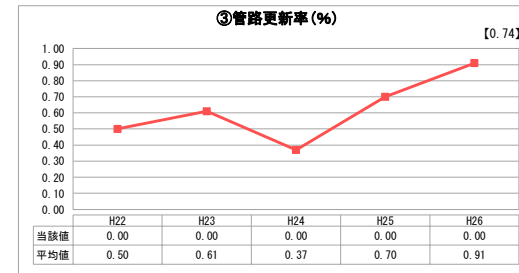
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は年々低下の傾向がみられていたが、平成25年度から水道料金の値上げを実施し、給水収益の改善を図ったため向上している。
次に、企業債残高対給水収益比率については、新たに企業債の借入れを行っていないことで残高は減少している。
また、料金回収率は類似団体平均値を上回っていたが、料金の値上げにより改善がみられる。
なお、有収率は漏水調査を実施し、その結果に基づき修繕等を行っているため、平均値より高く推移している。

2. 老朽化の状況について

整備後45年が経過した設備などがあり、今後老朽化対策が必要となるが、修繕による維持管理に努めているのが現状である。

全体総括

山間部という地理的条件のため給水人口の増加は見込みにくい。
水道料金の値上げにより経営の安定を図っているが、今後も経費節減等や修繕による維持管理に努める。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。